

資料編

上十条一丁目西町会

路地園芸トライアル

～上一西の路地を花や緑でいっぱいにして～

江戸のまちは世界一の園芸都市だった。

みんなの大切な生活空間である路地の園芸を見直して、
自慢できる上一西の街並み景観を創りませんか。

園芸の専門家とまちづくりの専門家が、
皆さんの魅力ある路地づくりをお手伝いします。

第1回ワークショップ

「江戸の園芸を知る」

日時：平成18年2月21日(火) 13:30～16:00

会場：上十条一丁目西町会会館2階

参加費：無料

講師：賀来宏和（かくひろかず）

都市環境プロデューサー

株式会社 グリーンダイナミクス代表取締役

英国王立園芸協会日本支部理事



ビデオ上映 「大江戸花暦」(浜名湖花博) 20分

講演 「世界一の江戸園芸」 90分



- ・100年ぶりに訪れたガーデニングブーム
- ・世界を凌駕した江戸園芸
- ・江戸園芸の特徴
- ・将軍から庶民への300年
- ・外国人が驚嘆した江戸の町と人



主催：上十条一丁目西町会、全国路地のまち連絡協議会

後援：(財)北区まちづくり公社、十條あすみの会 / (財)都市化研究公室補助事業

連絡先：上十条一丁目西町会会長 沖田光泰(電話：3908-2714)

葵三代の園芸



東照大権現像 天海賛写
久能山東照宮博物館蔵

初代 徳川家康

(将軍在位1603~1605)

若い頃から薬草等の植物に詳しく、駿河を平定した後、駿府に薬草園を設置したと伝えられる。

江戸に幕府を開いた後も、元駿河国丸子の小野寺の別当芥川正知に命じて、江戸城二の丸に花畑を設置し、芥川氏に接木屋敷を与えて、花畑の預職としたと古書にある。

また、儒官である林 羅山から、中国の薬学書である「本草綱目」を献上され、自身で研究し、薬草の調合なども自身で行っていたと伝えられる。

大御所時代の慶長一四年(1609)には、琉球を征服した薩摩の領主島津家久が御礼として「佛桑花(ハイビスカス)」、「茉莉花」(ジャスミン)を献上したとの一事は、各大名が、珍花・名花を献上したであろう事を代表している。



徳川秀忠公画像
松平西福寺蔵

二代 徳川秀忠

(将軍在位1605~1623)

二代秀忠も、父に似て無類の花好きであり、「武家深秘録」(1615)に「徳川二代将軍花癖あり、名花を諸園に徴し、後園に植えたる中に、広島椿という飛入(斑模様入り)の珍花を献じたる者あり」と記録されている程であった。

また、この時代に固定した参勤交代が、各大名が自分の領地から江戸に、珍花・奇木を運んで江戸屋敷に植えたり、献上したりする風潮を生じ、後に江戸が園芸の中心地となる素地を育んだのではないかと思われる。また、秀忠の五

女和子が入内した後水尾天皇は非常に椿を好み、将軍の趣味と重なることにより、椿に対する世の関心は、永い文化的伝統をもつ京都を中心に非常に高まり、世に言う「寛永の椿」の時代を現出した。「百椿集」、「百椿図」などの作

品は二のり寺と云われている。



八坂書房「プラントハンター物語」より
奈良 長谷寺蔵

三代 徳川家光

(将軍在位1623~1651)

三代家光も父祖の好尚を受け、とりわけ盆栽(当時は盆山・鉢木と言われていたと伝えられる。)に執心したと伝えられる。その様子は、ご意見番大久保彦左衛門が、家光愛用の盆栽を庭に投げつけて諫めたと伝えられる故事からもうかがえる。

この時代には、家康以来の薬草園の整備も進み、寛永一五年(1638)に江戸城の南北に、品川(麻布御薬園)、牛込(大塚御薬園)の両薬園を開設した。この両薬園が貞享元年(1684)に小石川薬園として統合され、享保年

間に八代吉宗がさらに拡充するなかで、享保六年(1721)に小石川養生所が設置され、享保一〇年(1735)には、青木昆陽が甘藷(さつまいも)の栽培を開始するなどの活動のすえ、現在は東京大学付属小石川植物園となっている。

1700										1680										1660										1640										1620										1800										西暦					
元禄					貞享					天和					延宝					寛文					万治					明暦					承応					慶安					正保					寛永					元和					慶長					年号
綱吉					家綱					家光					秀忠					家康																									将軍																				
					生類憐れみの令															由井正雪の乱										島原の乱										大阪の陣					関ヶ原の合戦 家康征夷大將軍となる					摘要															
正徳の菊										元禄の躰闘																				寛永の椿																																			

1800										1780										1760										1740										1720										1700										西暦					
寛政					天明					安永					明和					宝暦					寛延					延享					寛保					元文					享保					正徳					宝永					元禄					年号
家斉					家治					家重					吉宗					家継					家宣					綱吉																				将軍															
寛政の改革					天明の飢饉																				享保の飢饉										享保の改革はじまる					正徳の治										摘要															
寛政の橋																									享保の楓															正徳の菊																									

1880										元治										1860										万延										1840										1820										1800										西暦
慶応					文久					安政					嘉永					弘化					天保					文政					文化					享和					年号																									
慶喜					家茂					家定					家慶					家斉																									将軍																									
					大政奉還					安政の大獄					日米修好通商条約										天保の改革					大塩平八郎の乱					異国船打払令					フェートン号事件										摘要																				
																																																		寛政の橋																				
																																																							庶民文化としての園芸の円熟(化政文化)															

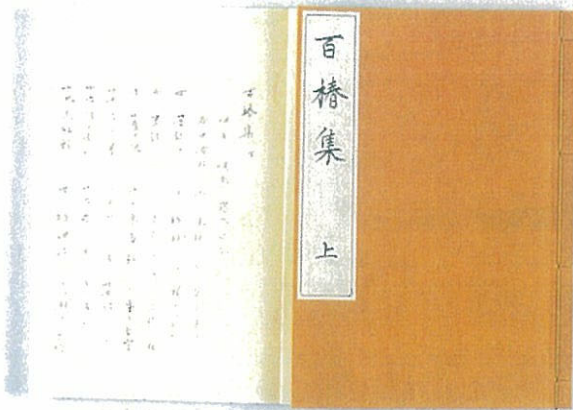
寛永の椿

ツバキは、日本書紀や万葉集の昔から日本人に親しまれた日本固有の花で、「椿」という文字が初めて使用されたのは万葉集です。飛鳥時代には海石榴市（つばき）という地名もあります。

ツバキが江戸初期の園芸ブームのさきがけとなったのは、豊臣秀吉がツバキを好み、伏見城にたくさん植えたとか、茶道の祖千利休が炬の花として多用した（京都西方寺に利休ゆかりのツバキがある）からとも言えますが、正確なところは、二代將軍秀忠にあるようです。『武家深秘録』の中に、「將軍秀忠花癖あり。：中略：此頃より山茶（ツバキ）流行し、数多の珍種いず」とあり、当時の江戸城では多くのツバキが植えられていたことが、『江戸城図屏風』（国立歴史民俗博物館蔵）から推察されます。

秀忠の娘和子が入内した後水尾天皇もツバキを愛したようで、京と江戸という当時の日本の二大都市でツバキが行ったようです。

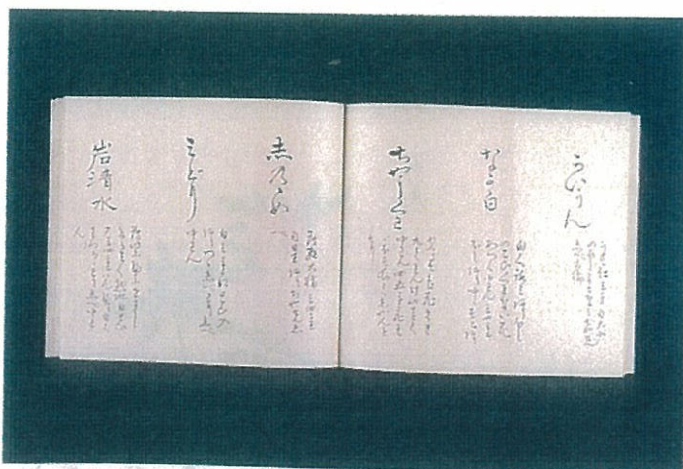
当時のツバキには、今日我々が見ることのできるほとんどの花形、花色が存在し、品種の発達は驚くべきものでありました。



百椿集写本 上巻（表紙）下巻初丁見開き
雑花園文庫蔵



「椿の絵」池田端月画 上大腰蓑・住吉霞 下 楊貴妃・薄雲
東京都立中央図書館加賀文庫蔵



椿花形附覚帳（見開き）
雑花園文庫蔵

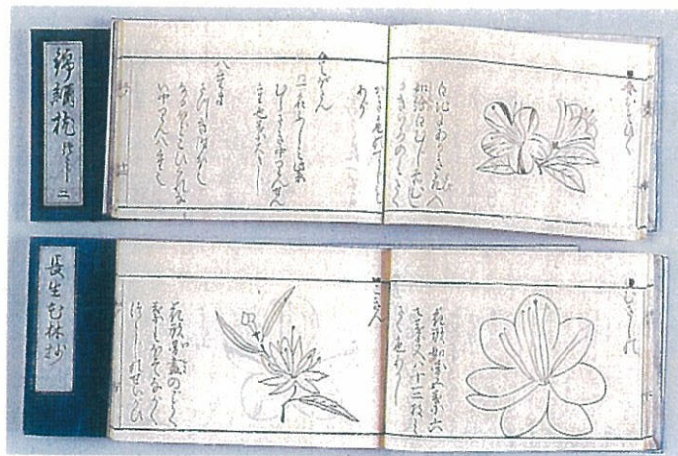


元禄の躑躅

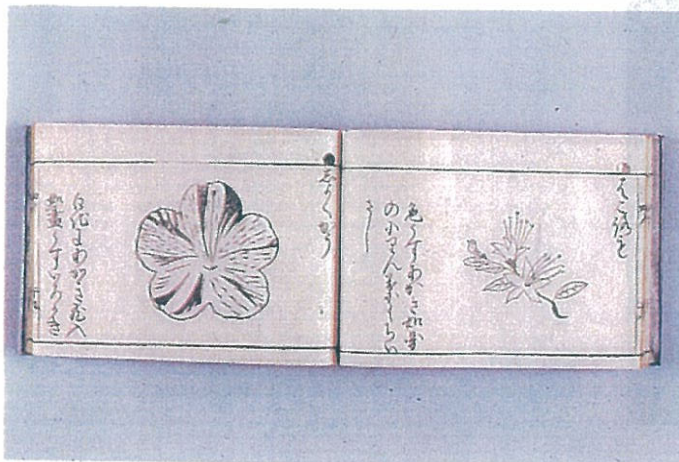
ツツジは、現在でも庭木として親しまれている日本原産の低木です。なかでも、「霧島ツツジ」の名称は今でもよく聞く名称です。「霧島ツツジ」の由来は、もちろん鹿児島県の霧島山原産ということに由来していますが、現代に残るほど世に広まった理由は、のちに江戸随一の植木屋といわれる「霧島屋」がツツジの流布に力があつたからだと考えられます。

「霧島ツツジ」の由来は、伊勢藤堂家（今の三重県の大名が秘蔵の「面向」、「無三」、「唐松」の三種類と言われています。藤堂家は染井に下屋敷を持っており、「霧島屋」の三代目伊藤伊兵衛三之丞（霧島屋伊藤家は代々伊兵衛を名乗った。）は三代目藩主の藤堂高久に仕えていました。伊藤三之丞が、その三種類を接木や挿し木で増やし広めたことや、ツツジ自体が育てやすく増やしやすいため、ツツジのブームが生まれた理由だと思われています。

「霧島屋」が隆盛を極めた頃、自宅の庭を浮世絵師近藤助五郎に描かせた絵図「武江染井翻紅軒霧島之図」には「きり嶋古木三木」として、先の三種の親木が描かれています。伊藤三之丞が著した「錦繡枕」（元禄五年刊 1692）には、実に三三五種のツツジとサツキが記録されています。もとの三種から考えると、当時のツツジの種類と豊富さと流行ぶりがしのべれます。



上 錦繡枕・下 長生花林抄
雑花園文庫蔵



長生花林抄巻四（見開き）
雑花園文庫蔵



阜月図譜（人丸の図）
雑花園文庫蔵

正徳の菊

キクは、奈良時代にはすでに中国から渡来していたと思われています。平安時代には、九月九日の重陽の節句に、前日から菊の花に真綿を被せ、露のついた綿で翌朝体を拭いて長寿を願う「菊の被綿」という行事が行われました。それほど昔から貴族や高僧などに親しまれていた菊が、庶民の楽しみとなって、爆発的な人気を博したのは江戸時代中期の正徳年間（1711～1716）です。この時代は、江戸初期からの品種改良技術の向上や、栽培技術の向上もあって、さまざまな種類の菊が栽培されました。「花壇地錦抄」（1695）と「増補地錦抄」（1710）には計三一九種類が紹介されています。

このような状況を背景に、京都を中心に菊の品種を競う「菊合わせ」が流行しました。「菊作り汝は菊の奴かな」という蕪村の句に、菊の栽培に狂奔した当時の人々の模様が察せられます。忠臣蔵の赤穂浪士の一人武林唯七作と伝えられる「菊の画譜」という巻子本も有り、五一種類の菊が描かれています。

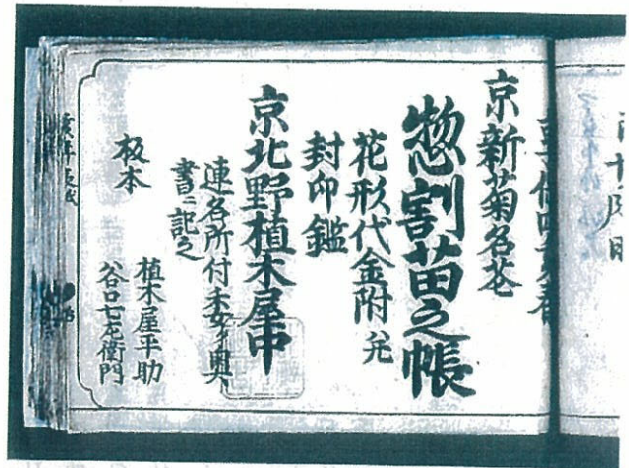
菊の新芽一本が何両もしたという逸話は、江戸の園芸が咲き誇り、植物が投機の対象となった化政時代の先触れとも言える時期ではないでしょうか。



菊ノ画譜 伝 武林唯七（赤穂浪士の一人）元禄3年画
雑花園文庫蔵



京新菊名花惣割苗之帳 享保4年春
京都北野植木屋連中によるキクの苗カタログ
雑花園文庫蔵



享保の楓

享保年間（1716～1736）は、有名な八代將軍吉宗の時代で、世に享保の改革といわれる江戸時代のひとつのターニングポイントとなった時代です。この時代の流行したのは、それまでに流行した、ツバキ・ツツジ・キクと違い、花の咲く植物でなく、紅葉を楽しむカエデでした。

カエデを好んだ代表は、やはり將軍吉宗が代表です。享保九年（1724）に清国から献上された「トウカエデ」に関心を持ち、染井の植木屋で霧島屋の五代目伊藤伊兵衛政武に日本産の「深山楓」に接木させ、その苗木を与え、増やして世間に広めるようにと命じたそうです。

霧島屋は、三代目伊藤三之丞の頃より江戸きつての植木屋との評判があったようですが、五代目の伊藤伊兵衛政武の時代には將軍吉宗の御成があるなどその隆盛は頂点に達したようです。カエデについても三代目伊藤三之丞の著した『花壇地錦抄』には二三種があり他の植物に比して決して多くないのですが、伊兵衛政武の著した『花仙百色紅葉集』には、実に一〇〇種類が記されています。

伊兵衛政武は、なかなかの風流人であつたらしく、カエデの品種それぞれの特徴を古歌になぞらえました。一例ですが、その第一番の品種は、「小倉山」と名づけられ藤原定家の和歌から名づけられています。

霧島屋伊藤家の屋敷と庭（園芸センター）は、『武江染井翻紅軒霧島之図』に描かれています。その広大な庭と、豊富な植物は当時の伊藤家の隆盛を物語っています。この頃から、染井・巣鴨周辺には大きな植木屋が集まり、江戸のガーデンセンターとして幕末まで続きます。



からたちばな「金剛縮緬」華陽画 山花亭記
維花園文庫蔵



武江染井翻紅軒霧島之図
豊島区郷土資料館蔵

寛政の橘

「白河の清きに魚も住みかねてもとの田沼の濁り恋しき」と歌われた、老中松平定信の寛政の改革（1787～1793）が定信の老中引退で幕を閉じた直後から、最近のバブル期にも似た投機熱が植物の世界でもありました。その植物がタチバナです。

タチバナは、植物学上は「カラタチバナ」といい、現代の我々の想像するミカンの一種の橘ではありません。派手な花が咲くわけでもなく、冬に実が赤くなりますがマンリヨウやセンリヨウ（お正月に飾る）と比べてもそれほどではありません。

タチバナが投機対象となった理由としては、寛政の改革時代の儉約に対する反発もあったのかもしれませんが、やはりタチバナが葉の奇形や、斑が入るなど品種自体に他の品種との差別化ができ、さらに鉢植えであるため実物で取引ができたという点が大きかったと思われます。投機ブームは上方（京都・大阪）で始まり、あつという間に江戸でも広まったと言われています。一鉢が、一〇〇両以上の価格で取り引きされ、大阪では一鉢二三〇両（今の価格で約一億円）の値がついたという言い伝えもあります。

タチバナの流行は一時的なものでしたが、次の文化・文政時代には、現在、古典園芸植物と言われているものも含めて投機対象となりました。しかし、それだけの価格がつくだけ、その時代が豊かであり園芸がポピュラーなものであつた一証ではないでしょうか。

庶民文化としての 園芸の円熟 (化政文化)

化政時代(1804~1829)は、江戸の文化がもつとも円熟した時代であったようです。小説の山東京伝・十返舎一九、俳諧の与謝蕪村・小林一茶、絵画では谷文晁・田能村竹田・葛飾北斎・歌川広重など絢爛たる時代を築いた文化人達が数えられます。

園芸の世界でも、今までの時代のようにひとつの花が流行するのではなく、さまざまな植物が栽培されたと同時に、植物が庶民の身近な楽しみとして定着した時代でもあります。

オモト(万年青)、マツバラ(松葉蘭)、セッコク(石斛)などの現在古典園芸と称される植物は、奇形や葉の斑の入り方などで希少性が高められてきました。また、アサガオも花の色や形がいろいろと変化したものが珍重されました。共通している点は、ともに鉢植えであり、それほど大きな植物でないことから、大名屋敷や寺社のような広大な庭園がなくても栽培できる点です。

この当時、士農工商の身分を超えて同好の者が集まり盛んに品評会などを開催した記録が多く残っています。

また、元禄から正徳にかけて発展した植木屋が、菊人形を作って競ったり、新たな品種を開発して売り出したりと、現在の我々のガーデニングの楽しみ方とほとんど似たような状況であったようです。化政時代は、まさに江戸の園芸文化が花開いた時代と言うことができます。



繪本江戸桜「染井之植木屋」
東京都立中央図書館特別買上文庫蔵



松葉蘭刷り物 玉青堂愛齋
雑花園文庫蔵



万年青7種刷りもの 天保2年刊 雲停画
雑花園文庫蔵



長生草相生獅子 白鷹刷りもの
雑花園文庫蔵



牽牛品類図考 「桜台咲」「孔雀台咲」
雑花園文庫蔵



立花並次第不同 植幸記
雑花園文庫蔵



青木宏一郎著「江戸のガーデニング」(榊平凡社)
鳥居清長画『風俗東之錦』(千葉県立中央博物館蔵)



青木宏一郎著「江戸のガーデニング」(株平凡社
歌川国貞(三代豊国)画『春雪梅ノ宴』(千葉県立中央博物館蔵)



青木宏一郎著「江戸のガーデニング」(榎平凡社)
歌川国芳画『百種接分菊』(個人蔵)

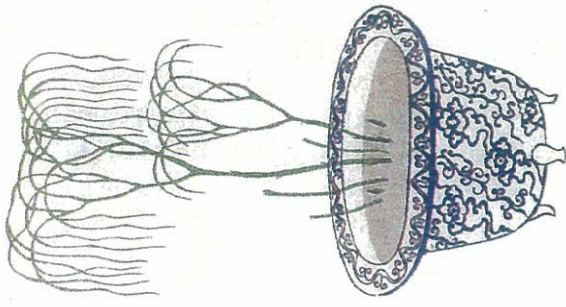


青木安一郎著「江戸のゲーニング」佛平凡社
 彫庄 (一) 加多阿包

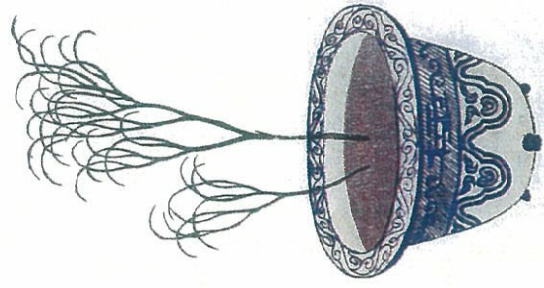


青木宏一郎著「江戸のガーデニング」(榊平凡社
『珍花福寿草』より各種フクジュソウ(千葉県立中央博物館蔵)

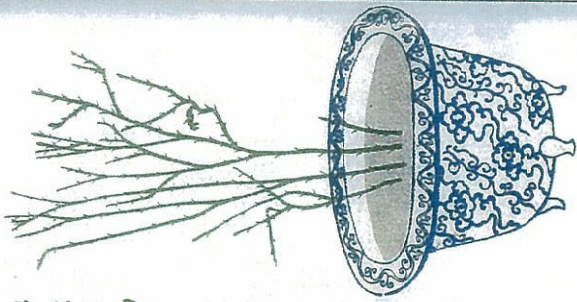
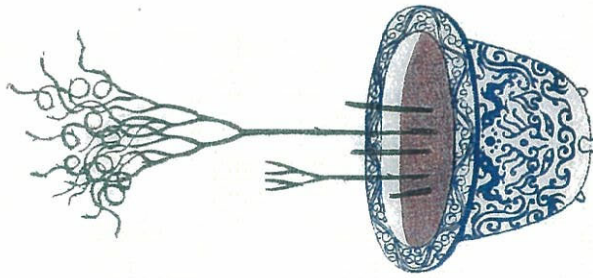
朝妻縮緬



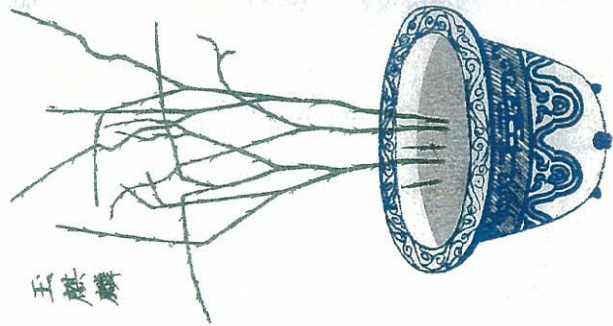
玉縮緬



玉光縮緬

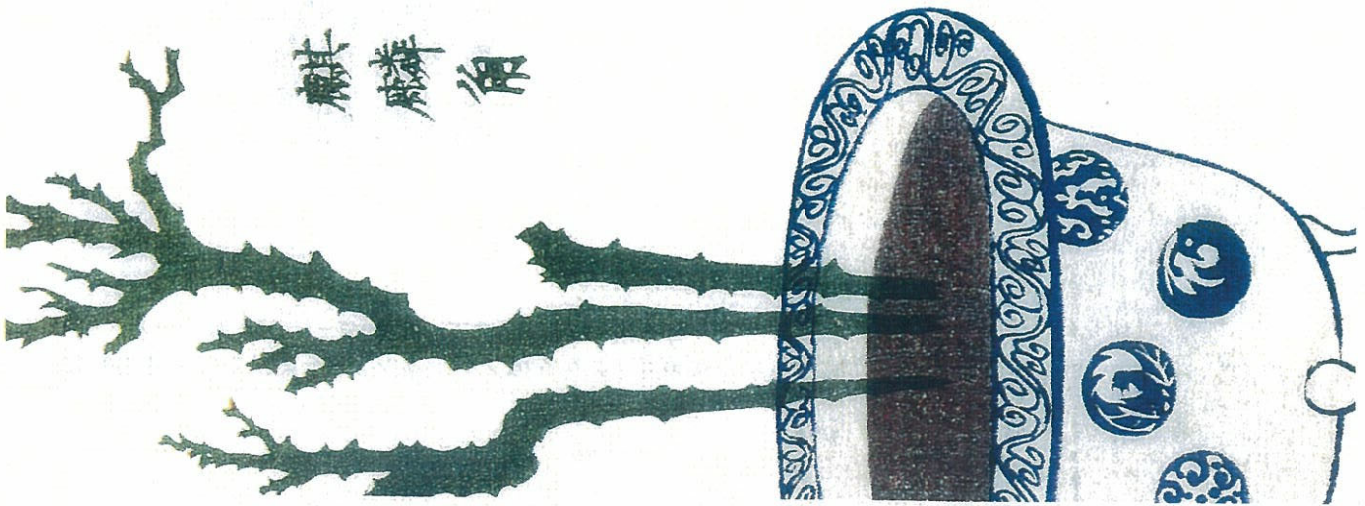


御簾玉縮



玉縮緬

角麟棋



『松欄譜』より各種のマツパラン。天保8年に、深見玉青堂が三河の素封家・好事家の愛用品を平直忠義に図写させて刊行したもの。(千葉県立中央博物館蔵)

上十条一丁目西町会

路地園芸トライアル

～上一西の路地を花や緑でいっぱいにして～

第2回ワークショップ

「上一西路地園芸探検と 路地園芸ワークショップ」

日時：平成18年3月30日(木) 13:30～16:00

会場：上十条一丁目西町会会館2階

参加費：無料

講師：片山陽介（かたやまようすけ）氏

株式会社 グリーンダイナミクス植物調査室

賀来宏和（かくひろかず）氏

株式会社 グリーンダイナミクス代表取締役



上一西路地園芸探検

60分

- ・上一西の園芸を発見して、楽しもう
- ・園芸のこつを専門家から現場で直接聞こう



上一西の路地を専門家と一緒に探検し、どんな花や木が植わっているのかを発見します。思っていない花や木が植わっているかもしれません。専門家から手入れ方法や見せ方等々、現場で直接園芸のこつを聞いてしまいましょう。

ワークショップ 「路地園芸トライアル」

90分

- ・路地を園芸で彩る方策をみんなで考えよう



上一西の実際の路地を選んで、専門家と一緒にその路地の園芸を考えます。路地に合わせた植物の選び方、アレンジメント・しつらえ、季節の移り変わりを花で演出などなど……

連絡先：上十条一丁目西町会町会長 沖田光泰 (TEL：03-3908-2714)

主催：上十条一丁目西町会、全国路地のまち連絡協議会

後援：北区環境課・(財)北区まちづくり公社、十條あすみの会

(財)都市化研究公室補助事業

上十条一丁目西町会

路地園芸トライアル

～上一西の路地を花や緑でいっぱいにして～

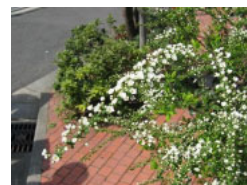
第3回ワークショップ

「路地園芸実践トライアル」



みんなの大切な生活空間である路地の園芸を見直して、
自慢できる上一西の街並み景観を創りませんか。

園芸の専門家とまちづくりの専門家が、
皆さんの魅力ある路地づくりをお手伝いします。



日時：平成18年4月25日(火) 13:30～16:30

会場：上十条一丁目西町会会館2階 **<雨天決行>**

上十条一丁目17番21・22号前路地

参加費：無料

講師：片山陽介（かたやまようすけ）氏

株式会社 グリーンダイナミクス植物調査室

賀来宏和（かくひろかず）氏

株式会社 グリーンダイナミクス代表取締役



ワークショップ 「路地園芸実践トライアル」

- ・前回皆さんで議論した内容を、いよいよ実際の路地で実践します。
- ・土の入れ替え、プランターの設置、花苗の植え付けを行いますので、汚れても良い衣服でお集まりください。



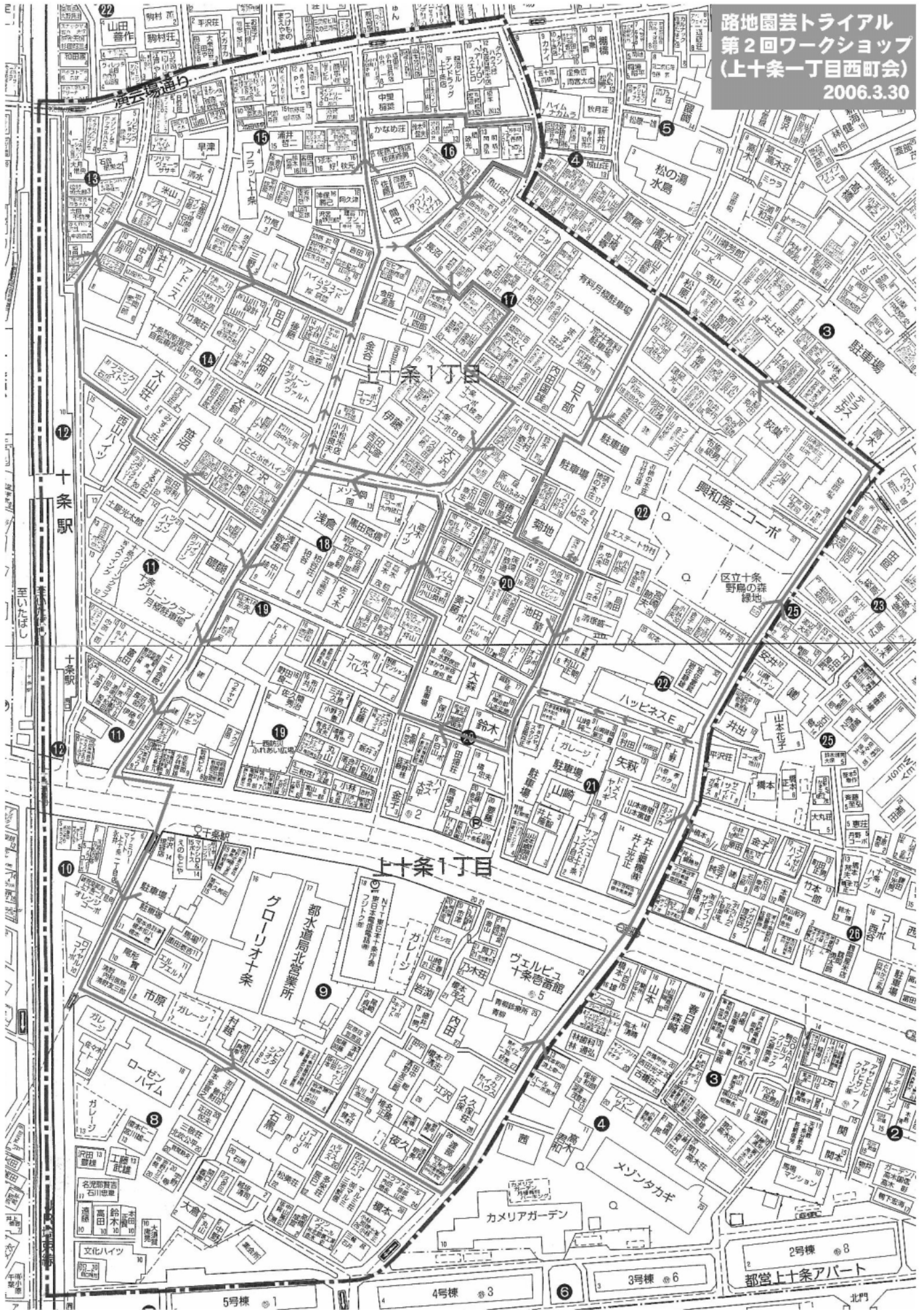
連絡先：上十条一丁目西町会町会長 沖田光泰 (TEL: 03-3908-2714)

主催：上十条一丁目西町会、十條あすみの会、全国路地のまち連絡協議会

後援：北区環境課・(財)北区まちづくり公社

(財)都市化研究公室補助事業

路地園芸トライアル
第2回ワークショップ
(上十条一丁目西町会)
2006.3.30



5号棟 ①

4号棟 ③

⑥

3号棟 ⑥

2号棟 ⑧

都営上十条アパート

北門

平成 18 年 5 月

『北区上十条一丁目西地区路地園芸トライアル報告書』

発 行：全国路地のまち連絡協議会

総合調整：株式会社 都市計画同人

〒162-0831 東京都新宿区横寺町 58-1-4F TEL. 03-3267-4147 / FAX.03-3267-6369

技術指導：株式会社 グリーンダイナミクス

〒270-0034 千葉県松戸市新松戸 4-65-1-4F TEL. 047-348-6959 / FAX.047-343-7650

主 催：上十条一丁目西町会・十條あすみの会

後 援：財団法人 北区まちづくり公社

〒114-0001 東京都北区東十条 3-2-3-101 TEL.03-5959-2363 / FAX. 03-5959-2365

北区生活環境部環境課

〒114-8508 東京都北区王子本町 1-15-22 TEL.03-3908-1111 / FAX. 03-3905-3422

補 助：財団法人 都市化研究公室

〒107-0062 東京都港区南青山 2-2-15-534 TEL.03-3402-8041 / FAX.03-3470-0490

